

4/4 アニマルランド クイズラリー開催

4/7 臨時開園

5/25~7/20 新型コロナウイルス対策のため アニマルギャラリー、モルモットコーナー閉鎖

7/22~8/26 企画展「自然を探そう!園内の いきものMAP2021」開催

8/11 臨時開園

8/19~9/21 新型コロナウイルス対策のため アニマルギャラリー閉鎖

8/27~9/12 新型コロナウイルスまん延防止 重点措置のため閉園

9/2~9/30 敬老イベント開催









祝・敬老の日





敬老の日に、ご長寿動物たちのお祝いをしました。 ごちそうをたくさん食べて、ご満悦のようすでした。

のできごと



フラミンゴのヒナが3羽 **ふ**化しました。 親の口から吐き出される、フラミンゴ ミルクですくすくとそだっています。 今は、グレーの羽色ですがだんだんと 親と同じピンクに変化します。







祝•100号

今号で、アニマルランドニュースは100号を迎えることができました。 よく続けることができました。 して、絵は手書きでした。 して、とができました。 では、絵は手書きでした。 では、絵は手書きでした。

夏の企画展

「自然を探そう!園内いきものMAP2021」



去年から2年つづいて、夏の企画展はコロナ禍での開催となりました。高知市の感染状況によって、アニマルギャラリーが閉じたり開いたりとあわただしく、ギャラリー内特別展示場といきもの情報室とを行ったり来たりの展示となってしまいました。

気を取り直して…今回のテーマは私がずっとやりたかったものです。わんぱーくこうちアニマルランドは、私たちの先輩の代からずっと、四国産動物の保全活動や飼育研究を大切にしてきました。たとえば、ニホンカモシカやトサシミズサンショウウオ、ヤイロチョウ(現在は飼育していない)などです。はじめて動物園に来たときは、大きくてめずらしい外国産動物に目をひかれたものでしたが、実は私たちの足元にいる、小さないきものたちのことをどれだけ知っているだろう、と思い始めたのが、この企画展のきっかけです。その原点は、子どもの頃に身近にいるいきものに気づき、自然とふれあうことだと思います。生まれも育ちも大阪の私は、高知はすぐ近くに山や海など自然がたくさんあってうらやましいと思ってきました。コロナ禍もあり、家の中にこもりがちな方も多いと思います。そこで園内のいきものマップを作って、一人でも多くの"いきもの好き "を増やすために、自分が園内を歩き回って調べてみることにしました。

特に大変だったのは昆虫類と魚類です。もともと私は獣医師として鳥類やほ乳類などのせきつい動物を主にみてきたので、虫のことはさっぱりわかりませんでした(実は虫が少し苦手)。虫が好きな先輩たちに聞いて、園内を探し回ったり、写真をかしてもらったり、図書館で本を借りて調べたりしました。虫にかぎらず、まず思ったのは、私たちと全然ちがう生活や体のしくみを持っているということです。えー!あんなことやこんなことができるの!とおどろいたことをなるべく書くようにしまし





た。いきものたちの紹介パネルはなるべくシンプルに、できたら実物に出会って自分の目や耳や鼻や、 手で感じてほしいと思いながら作りました。中にはクマゼミやアブラゼミ、ニホントカゲやニホンカナ ヘビ、ドバトやキジバト、セグロセキレイやハクセキレイなど、すがたが似ているいきものもいますよ。 見た目やくらしも少しずつちがうので調べてみてくださいね。また公園の池の水をすくってみたり、枯 れ葉の下をのぞいてみたりすると、そこでひっそりとくらしている小さないきものにも出会えるかもし れません。大きなヘビやチョウセンイタチ、ホンドタヌキなどが園内に出てくること、知っていました か?ハチや毛虫など、ヒトにきらわれているきけんないきものもあえて紹介しました。ヒト目線では害 がありますが(さされるととてもいたい!)、彼らだって自分たちの子孫を残すために一生けんめいに生 きています。

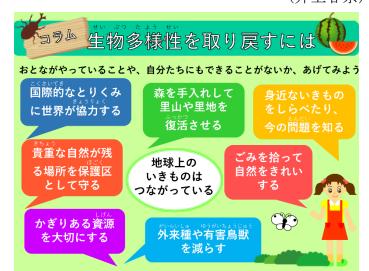
今では園内を通りがかってにいきものたちを見つけると、こんにちは!とあいさつしてしまうまでになりました。一回調べると、そのいきものとの距離が一気にちぢまる気がします。今まで気がつかなかったいきものが見えてくるのですからふしぎです。カワセミやホンドタヌキなど、レアキャラに会えると得した気分になります。いきものですから、ゲームの中とはちがい、必ず現実的な生と死があります。虫や魚、小鳥など、たくさん生まれて他者にたくさん食べられるいきものもいます。そんな場面も少なからず見ながら、野生でたくましく生きている彼らをすごいなと思うようになりました。そんな経験をした子どもたちが大人になり、私たちと同じようにいきものを大切にしてくれるとうれしいです。

身近ないきものを調べていくと、かならず外来種にも出会います。外来種とは、もともと日本にいなかった植物や動物で、ヒトがわざと連れてきたり、たまたま外国の荷物などにまぎれて国内へ入ってしまったいきものたちです。わんぱーくこうちでは特に魚類やは虫類に多く、園内の池には残念ながら外来種(カダヤシ、タイリクバラタナゴ、ミシシッピーアカミミガメなど)がたくさん住んでいます。彼らにまったく罪はないのですが、日本にもとからいた在来種より生き残る力が強く、日本の生態系をこわしてしまうため、すすんでつかまえられ、駆除されているところも多いです。

さて、ここまでくると『生態系』を調べないわけにはいきません。なぜたくさんの日本のいきものが必要なのか―『生態系』や『生物多様性』をぜひ紹介したいという気持ちが強くなりました。いきものの種は一つ一つの点ですが、実はそれらは線でつながっていて、ふくざつに支え合っているのです。たとえば、虫がいなければ鳥は生きていけません。食べられる植物が減り、草食動物がいなくなると、肉食動物は生きていけません。いきものたちが減ると、その死体を分解する虫や土の中の菌が生きていけません。彼らがいなくなると、栄養のある土が作られず、植物が育ちません。このため、温暖化や大雨など地球の環境が大きく変わったり、ニホンジカなど特定の種だけが一気に増えたりすると、生態系のバランスはかんたんにくずれてしまうのです。これらはけっして対岸の火事ではなく、私たちヒトも生態系の一部であることを忘れずにいてほしいのです。ヒトは人工的なものだけで生きていけると思われがちですが、古くから食べ物やすみか、材料など自然のめぐみと深くかかわりながら生きてきました。そして日本はもともと、島国でさまざまな地形をもつことから、いきものの種の多さにめぐまれているくになのです。このことに感謝をして、彼らを守りながら生きていきたいものです。

このように、ついたくさん紹介してしまいましたが、どこか一つでも君たちの心に引っかかって残ってくれたら、今回の企画展は大成功です。 (井上春奈)







ショウジョウトキの 子育てお手伝い作戦



バードハウスにいる朱色のきれいな鳥、ショウジョウトキ。現在27羽がバードハウスで暮らしています。

毎年5月~9月は繁殖期です。ペアになる相手を見つけたら小枝を集めて巣を作ります。巣が完成したら産卵し、抱卵がはじまります。ショウジョウトキは一度に2~4卵を産み温めます。うまくいけば20~25日後にはヒナが誕生します。しかしそう簡単にヒナの孵化までたどりつけません。有精卵であっても親が卵を地面に捨ててしまったり、いつの間にか卵が全てなくなっていたりします。上手く孵化までいったとしても、一週間までにヒナが死んでしまったりします。

親が育てる自然育雛ではヒナが育たないため、ほぼ毎年人工育雛をおこっていますが、やはり親が育てるのが一番です。うまく手助けをしながら半人工育雛にできないか?と考えました。まず抱卵している卵を回収し、擬卵を抱かせることにしました。擬卵とは石こうで作った偽物の卵です。擬卵をつくり、いざ巣に置くとすぐに抱いてくれるトキもいましたが、その場で投げ捨てるトキもいました。数日間擬卵を抱いてくれていた個体も偽物だと気づいたのか、いつの間にか擬卵は池に投げ捨てられていました。次にニワトリの卵にショウジョウトキの卵と同じような青い色をぬって置いてみると、まんまとだまされ抱いてくれました。しかし10日後にはどうやら捨てられ、また卵はなくなっていました。擬卵と交換した本物の卵は孵卵器へいれ孵化を待ちました。試行錯誤を繰り返しましたが、どうしても擬卵は偽物の卵だと気づかれてしまいます。どうにか孵卵器でヒナが孵化をするまでは擬卵を温めていてほしかったのですが、擬卵作戦はあきらめ、本物の卵を抱いているトキへヒナを返す仮親作戦に変更しました。

孵卵器で卵を温めていたヒナが2羽孵化しました。ヒナが大きく育ちすぎると仮親は自分の子供と認識せず育ててくれない可能性があります。ですから生後7日間ほどで仮親へ返そうと計画していましたが、あいにくの長雨。ヒナが雨に濡れてしまうと低体温で死んでしまいます。生後13日目に、やっと晴れ間がでてきました。これはチャンス!と思い、覚悟を決め、展示場で卵を温めている仮親の巣2カ所へヒナをそれぞれ置き、温めていた卵を回収しました。しかし急に現れた黒い物体に仮親達はビックリ!! そりゃそうです。13日齢のヒナは生まれたてのヒナの約7倍近くの体重で、少し歩こうとするくらい・・・。親鳥は首を伸ばしてヒナをみていますが、警戒して巣に近づこうとしません。ヒナも急に外の世界に出されて怖いようで、動かずじっとしています。やはりダメだったか・・・。と冷や冷やしながらずっと観察をしていました。徐々にヒナとの距離も縮まっていき、やっと巣に戻ったのは約1時間半後。その後はヒナを自分の子だと思ってくれたようで、抱き始めてくれました。

その後ヒナは仮親が上手に育ててくれ、順調に成長しています。

人間では手がかけてあげられないところまで、仮親はヒナの身体をきれいにしてくれます。さらにお腹の下で温めてもらい、愛情いっぱい注がれているのがこちらにも伝わってくるほどです。人間の手でも丈夫に育てることができますが、親が育てるのが一番だと改めて感じました。来年は擬卵作成の精度を上げ、さらなる繁殖率アップにつなげていきたいです。 (門谷真奈)



生まれた日



仮親の元へ託した初日



新人飼育員の自己紹介

はじめまして。今年の4月より、わんぱーくこうちアニマルランドに 配属になりました。

アニマルランドに来るまでは専門学校に通っており、動物園で働く と思ってもいませんでした。当然、動物についての知識が全然無く、 自分に飼育員ができるのかとても不安でした。ですが、先輩方が一か ら丁寧に教えてくれ、少しずつ飼育員という仕事に慣れてきました。

私の担当動物は、猛獣と両生爬虫類、サル類です。猛獣の担当と聞かされたときはとても驚き、怖いという思いが強かったです。最初はトラに近づくと吠えられたり、掃除中におしっこをかけられたりと苦労しました。しかし、いつの間にか動物たちも私に慣れ、くせや性格も分かるようになってきました。動物についての知識が増えれば増えるほど楽しくなりますし、担当動物の成長を近くで感じられるのでとてもやりがいのある仕事です。

さて最後におすすめの動物をご紹介したいと思います。それはジャガーです。当園の猛獣の中では一番小柄ですが、近くで見ると迫力がありかっこよく、またネコのような行動をとるところがかわいいのです。ジャガーは南米に生息するネコ科の動物です。梅の花のような模様の中に斑点があるのがジャガーで、無いのがヒョウです。当園には2頭のジャガーがいるので来園した際にぜひご覧ください。



伊藤秀都(いとうしゅうと)



小松史弥(こまつふみや)

2021年4月から、わんぱーくこうちアニマルランドで飼育技能員として働き始めました小松史弥と申します。アニマルランドで働くまでは、専門学校で2年間勉強していました。動物園に配属が決まった時は、動物の飼育知識などなかったのでとても不安でした。最初はエサの作り方を覚えるのが大変でした。しかし、今はエサづくりがだいぶ早くなりました。包丁で野菜を切るのは、先輩方よりもまだまだ遅いですが・・・。

ここで私の担当動物を紹介したいと思います。私は主に「ふれあい動物」と「小獣」などを担当しています。「ふれあい動物」はモルモットやウサギなどで、「小獣」はタヌキやサーバルなどです。この中で私が一番好きな動物はウサギです。なぜなら、昔祖母がウサギを飼っていて、私も小さい頃によくウサギとふれあっていたからです。自分に対してウサギが近寄って来てくれるのが可愛くて好きになったと思います。動物園に配属が決まったことも驚きでしたが、ウサギを担当することにも驚きました。そして、うれしかったです。

私の推しのウサギは、「おはぎ」と「クイ」と「ソロ」です。なぜ好きかというと、「おはぎ」は他のウサギ達と違う色の毛を持ち、「クイ」と「ソロ」は他のウサギよりも少し小さくて可愛いらしいからです。

ふれあい広場は10:30~12:00、13:00~14:30に開放しています。 ぜひ可愛いウサギ達に会いに来てください!



台風が過ぎ去った9月中旬。 暑い中、ライオン舎の前でキャッチ☆

左から

小野瀬 綸斗くん(3さい) 康人さん 耀太くん(1さい)

高知市からのご来園です。 わんぱーくこうちが好きでよく来園してくれているそうです。 お父さんと綸斗くんはライオンが好きで、 間近で見れてうれしそうでした。 耀太くんは上機嫌でずっと笑顔でした♪

10月から3月のイベントとお知らせ

開催中 ~12月14日(火) 動物紹介「知ってる?!グラントシマウマ」

12月16日(木)~2月1日(火) えと展 開催

日・祝 14:30~ ワンポイントガイド 動物の解説を飼育スタッフがおこないます

※年末年始の休園 12月28日~1月1日 3月25日(金)~4月3日(日) わんぱーくこうちまつり

3月30日(水) 臨時開園

※中止や延期がある場合があります。 ホームページ、Facebook、電話等でご確認 ください。

ふれあい広場開放時間

2021年4月1日から以下の時間に変更しています。

- -10:30~12:00 -13:00 14:30
- -13:00~14:30
- ※ 7月~9月は、動物が暑さで弱ってしまうため お休みしています

表紙「ヨーロッパフラミンゴの親子」

2021年10月1日発行 発行・わんぱーくこうちアニマルランド 〒781-8010 高知市桟橋通6-9-1 TEL088-832-0189 FAX088-834-0929 Eメール kc-171204@city.kochi.lg.jp 編集 山本將充 久川智恵美

http://www.city.kochi.kochi.jp/deeps/17/1712/animal/アニマルランドニュース 4,10月の年2回発行ホームページでも配信中

わんぱーくこうちアニマルランド

検索